

名張市版地域共生社会

名張市役所地域マネージャー 藤本勇樹

わが国の少子高齢化、人口減少が深刻化するのに伴い、政府より示された地域共生社会については、子ども・高齢者・障害者など全ての人々が地域、暮らし、生きがいを共に創り、高め合うことができる社会だと定義されています。

「行政に頼るだけでは、解決できない問題がたくさんある。」

「自分たちの地域の課題は自分たちで解決しよう。」

「ご近所さん同士の助け合いは楽しく、知り合いや人のつながりも増えた。」

現在も頻繁に聞こえてくる名張市の住民皆さんの声です。

財政難を発端とした行政改革のなかで、名張市が目指してきたものこそ、国の考える地域共生社会のイメージに合致しています。各市町の実情は違えど、名張市の取組が少しでも参考になればと、アイデア提言させていただきます。

名張市の取組の核となる部分は、確立された住民自治の仕組みと、それを後押しする相談支援体制です。

まず住民自治の仕組みについて、非合併都市、インフラ整備の借金、高齢化による税収の減少など厳しい財政状況におかれていた名張市は、様々な行財政改革の一環として、「自分たちのことは自分たちで解決する町」を目指し、住民自治組織「地域づくり組織」を創設。それは小学校圏域単位で、自治会や民生委員児童委員協議会、PTA、青年会など地域に存在する各種団体が集まり運営される組織であり、地域課題を把握し、部会の活動として解決にあたることができます。

各種用途が決められていた地域向け補助金を用途自由な交付金としたことも特徴です。交付金の用途を決める過程において地域課題を把握し、解決するためのさまざまな活動が生まれていきました。

地域活動の中でも、名張市では住民同士が家事を助け合う生活支援ボランティアが盛んです。おおむね1回500円の有償ボランティアとして平成20年から広まってきたこの取り組みは現在市内にある15地域のうち11地域で実施され、市内カバー率は70%以上、支援件数は年間25,000件を越えるものとなっています。

その活動は支援そのものがいきがい・介護予防にもなり、同じ地域住民同士の交流が生まれ、新たな地域力を生み出していきます。

また、地域の子育て広場は全地域に展開されています。この広場は地域の子どもは地域で育てるという思いから広まったボランティア活動で、地域の市民センターに子育て中の親子が訪れ、住民同士の交流が図られます。ここで活躍するのが地域の高齢者の皆さんです。子どもたちに関わることで、元気をもらっていると皆が口を揃えて話します。

このような地域の公益的な活動は住民自治組織「地域づくり組織」の部会活動の中で企画、実施されています。

そして、地域づくり組織と両輪をなす名張市の相談支援体制として、地域の住民活動への支援と、個別の複雑・複合的な課題を抱えるケースの支援を両面で担う「まちの保健室」の存在があり、行政と地域の協働を後押ししてきました。

まちの保健室は、介護保険の財源で整備した医療福祉の総合相談窓口ですが、その本質は地域づくり組織と一体的に活動し、専門職の立場からまちづくり支援を行うことです。子育て広場、介護予防、健康増進などに関する活動や各サロンの支援を行いながら、民生委員の駆け込み寺となり、地域住民の見守りも連携して実施しています。

個別の複雑・複合的な課題はまちの保健室や、分野を越えて密に連携する各種既存の相談窓口で受け止められ、名張市の重層的支援体制のネットワークで専門的な解決策が図られます。（まちの保健室における令和2年度相談実績 28,402件）

また、まちの保健室が地域の拠点である市民センターに常駐し、各種部会活動に参加する過程で、相談支援より得た解決のプロセスを無駄にすることなく、地域の活動者に還元し、循環させています。

常に地域は分野を超えて気づき、学び、出会う機会と場が得られており、ここに新たな資源が生み出されるプラットフォームを形成しています。

（名張市での地域共生社会構築のポイントまとめ）

- 地域課題を自主的に解決できる組織の整備。
- 課題を受け止め、関係機関等と連携できる相談支援体制の整備。
- 相談支援体制のネットワークより得られた解決のプロセスを地域に還元し、循環させて資源化。

ただ単に「なんでも相談窓口」を行政が設置して満足していても、地域は変わりません。使える資源は全て活用するという意気込みで、地域の体制整備と相談支援体制を循環させながら両輪で進めることが重要です。

国も重層的支援体制整備事業を創設し、地域づくり向け補助金の縦割りを無くすなど、後押ししてくれています。

これらの仕組みは各市町の実情に応じて形を変え適用していく必要がありますが、日本全国の地域づくりの土壌が豊かになり、次から次へと魅力ある地域活動の花が咲くような展開を望んでいます。

少子高齢化に負けない地域を目指し、オールジャパンで知恵を出し合い、歩みを進めていきましょう。